



ラジオNIKKEI

『キラメキの発想』 資料

2023年8月14日放送分

放送では主に日経平均株価を大きく動かしそうな内部・外部要因について、日経225OPトレーダーの視点から、さまざまなファンダメンタル指標やテクニカル指標などを用いて分析していきます。なお、主宰しているオプション倶楽部の詳細については倶楽部サイト「optionclub.net」をご覧ください。「OP売坊戦略」で検索！



OP売坊



2023年9・10月限SQ日までの注目イベント

<米国>

- 08月18日：日米韓首脳会談
- 09月01日：雇用統計（8月分）
- 09月13日：消費者物価指数（8月分）
- 09月14日：生産者物価指数（8月分）
- 09月15日：米メジャーSQ
- 09月15日：FOMC**
- 10月06日：雇用統計（9月分）
- 10月12日：消費者物価指数（9月分）

<欧州・英国>

- 09月14日：欧州政策金利
- 09月21日：英国政策金利

<日本>

- 08月25日：消費者物価指数（東京8月分）
- 09月13日：企業物価指数（8月分）
- 09月22日：政策金利**
- 09月29日：消費者物価指数（東京9月分）

<その他>

- 08月22-24日：BRICSサミット**

※第二金曜日（原則）は日経225OP期近限月の未決済建玉が清算されるSQ日のため、OPトレーダーにとって区切りとなる日です

2023年 8月

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2023年 9月

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2023年 10月

				5	6	7
1	2	3	4	12	13	14

7月24日の放送でお伝えしていた「米国債の格付け引き下げ懸念」が現実となりました。今後は他の格付機関が追随するか、他国で格下げがあるかに注視しています



日経225ミニオプションのSQ日
日経225ミニ先物・マイクロ先物、月次オプション、ミニオプションのSQ日
メジャーSQ 日経225先物・ミニ先物・マイクロ先物、月次オプション、ミニオプションのSQ日

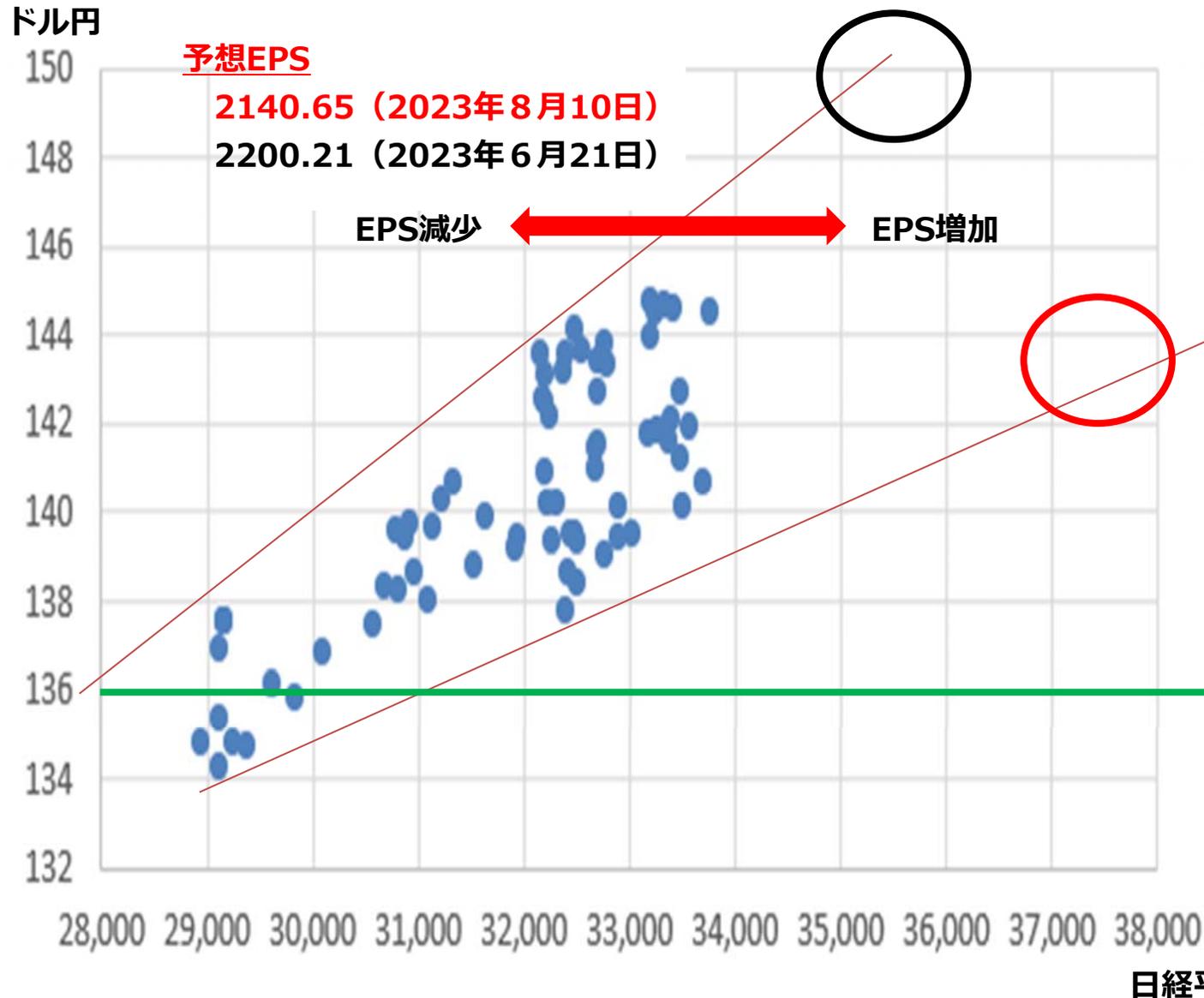
注) 予定は予告なく変更される場合があります。
出所) ブルームバーグ、ロイターなどから筆者作成

※『OP売坊公式ツイッター (@OP49431790)』でもニュースについてつぶやいています。



ドル円に大きく振り回されてきた日経平均

ドル円レート（縦軸）と日経平均（横軸）の分布図（23年4月末～8月10日）



ドル円レートが150円に到達すると日経平均3万6000円があるかもしれません（黒円）

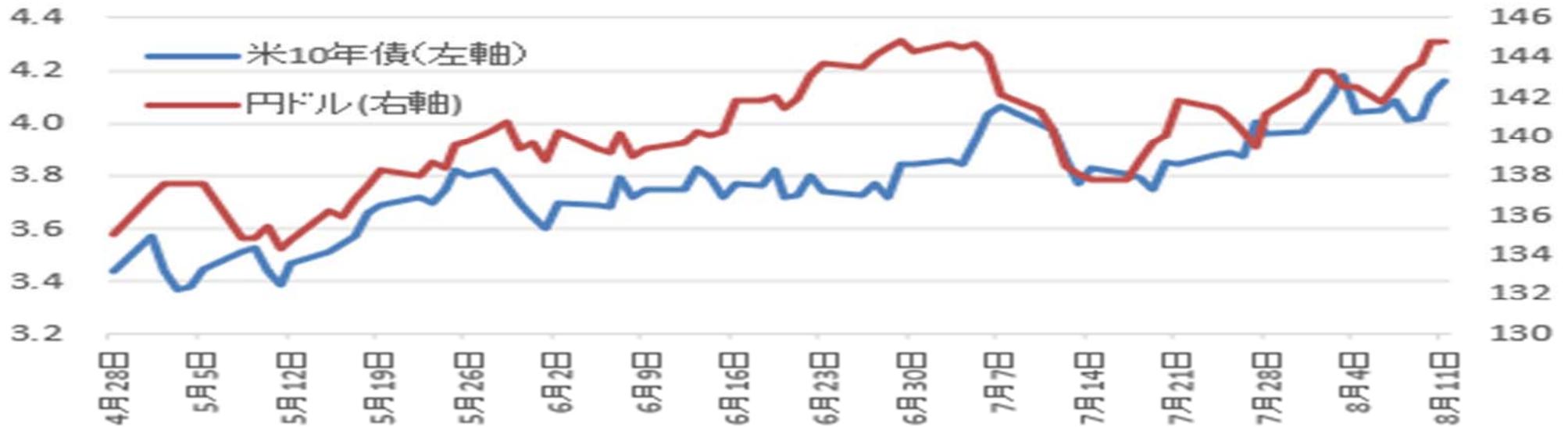
一方、日経平均の予想EPS（1株当たり利益≒企業業績）が1割伸びて、PER（株価収益率≒成長性）が15.5倍であれば株価 = EPS × PERですので、ドル円レートが現状の144円程度でも、3万7000円があるかもしれません（赤円）

一方、9月22日にYCCの変更があり、ドル円レートが136円まで急騰すると、3万1000円割れが視野に入ります（緑線）

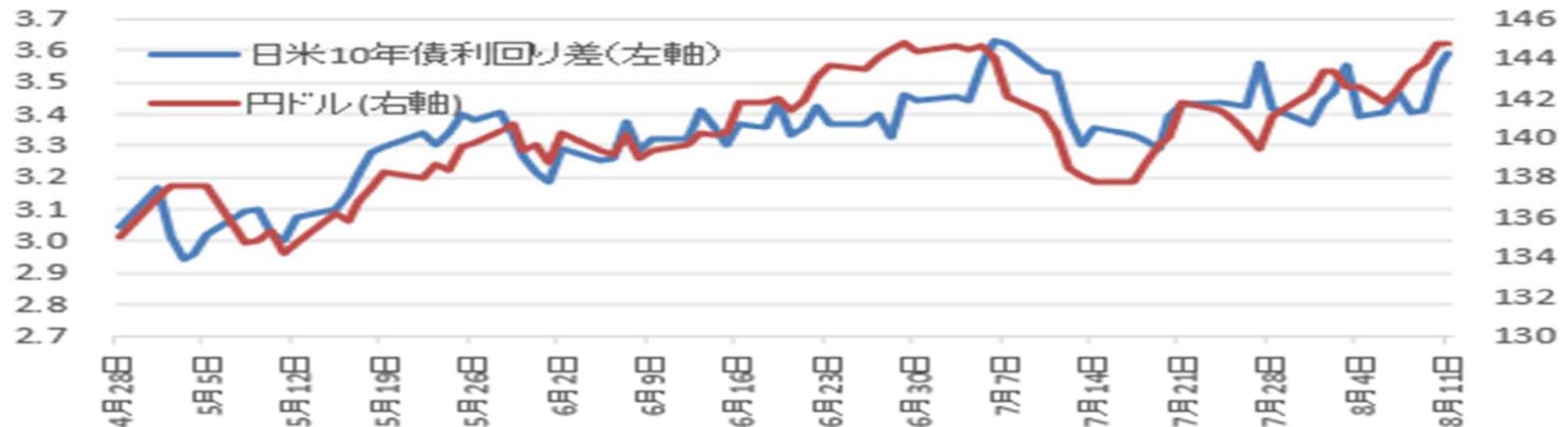


ドル円と日米10年債利回り差の相関が高まる

米10年債利回りとドル円レート



日米10年債利回り差とドル円レート



出所) ブルームバーグより筆者作成 (2023年8月11日現在)



国債：格付け引き下げが波及し始めた

3大格付け機関の各国債格付けとCDSおよび政府債務残高対GDP比予想（上段：5月12日、下段8月10日）

	長期債格付け			CDS 5月12日	政府総債務残高（対GDP比）			
	ムーディーズ	S&P	フィッチ		2022	2023E	2024E	2028E
ドイツ	Aaa	AAA	AAA	14.03	66.5	67.2	66.5	59.6
米国	Aaa	AA+	AAA	65.30	121.7	122.2	125.8	136.2
英国	Aa3↘	AA	AA-↘	19.05	102.6	106.2	109.7	113.1
フランス	Aa2	AA↘	AA-	27.49	111.1	111.4	112.4	115.0
中国	A1	A+	A+	75.72	NA	NA	NA	NA
日本	A1	A+	A	24.28	261.3	258.2	256.3	264.0

	長期債格付け			CDS 8月10日
	ムーディーズ	S&P	フィッチ	
ドイツ	Aaa	AAA	AAA	14.01
米国	Aaa	AA+	AA+	20.25
英国	Aa3↘	AA	AA-↘	27.72
フランス	Aa2	AA↘	AA-	25.00
中国	A1	A+	A+	59.74
日本	A1	A+	A	19.15

出所) 各評価機関、IMF、ブルームバーグより筆者作成

参考) トルコとエジプトのCDSと10年債利回り（2023年8月10日）

トルコ：401.58、17.66%

エジプト：1398.96、23.52%

財政規律に、より焦点が当たってきています。国債の格付け引き下げは、まだ始まったばかりかもしれません

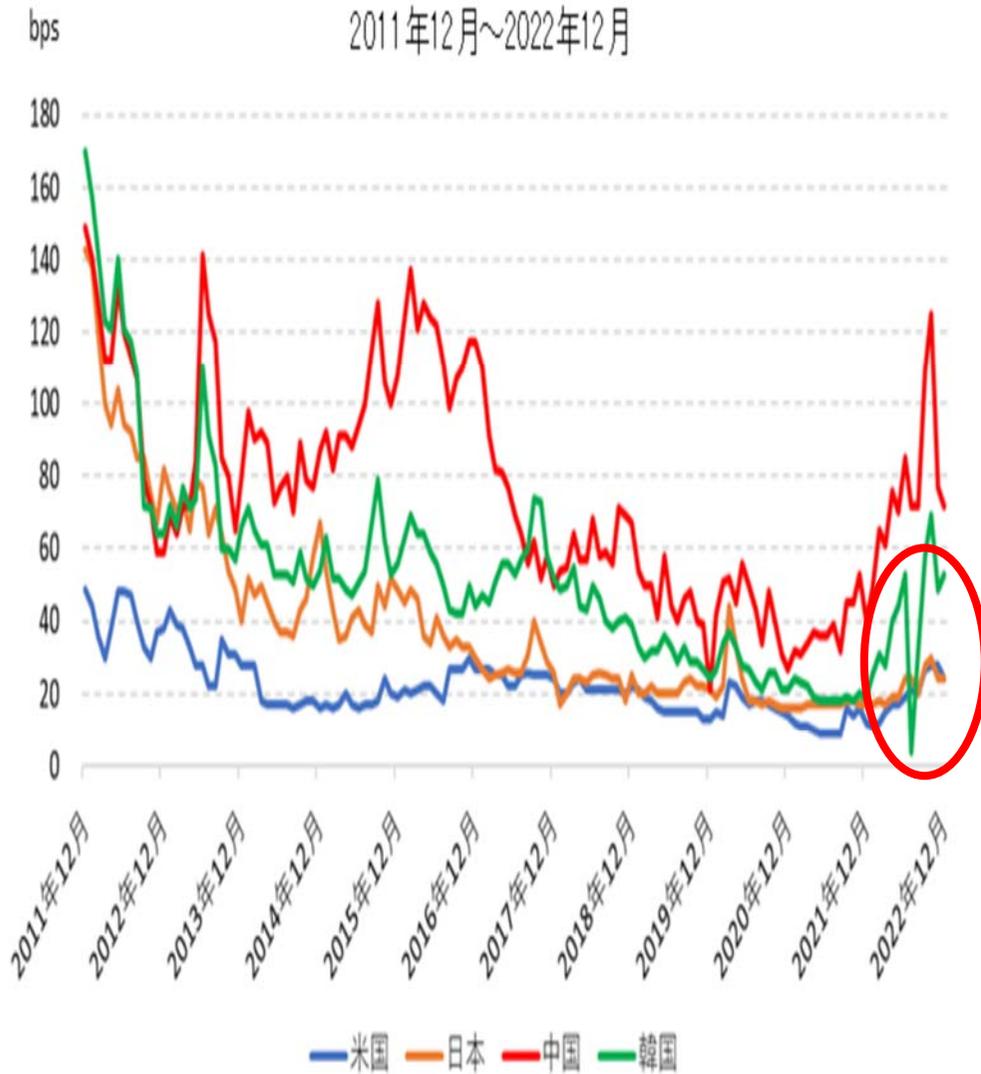
①ムーディーズとS&Pも米国債の格下げに追随するか？

②ムーディーズとS&Pが存在感を示すため英国・フランス・日本国債の格付けを引き下げるか？ **ムーディーズは米地銀10行の格下げをしました。さらに6行を格下げ方向で見直しています**

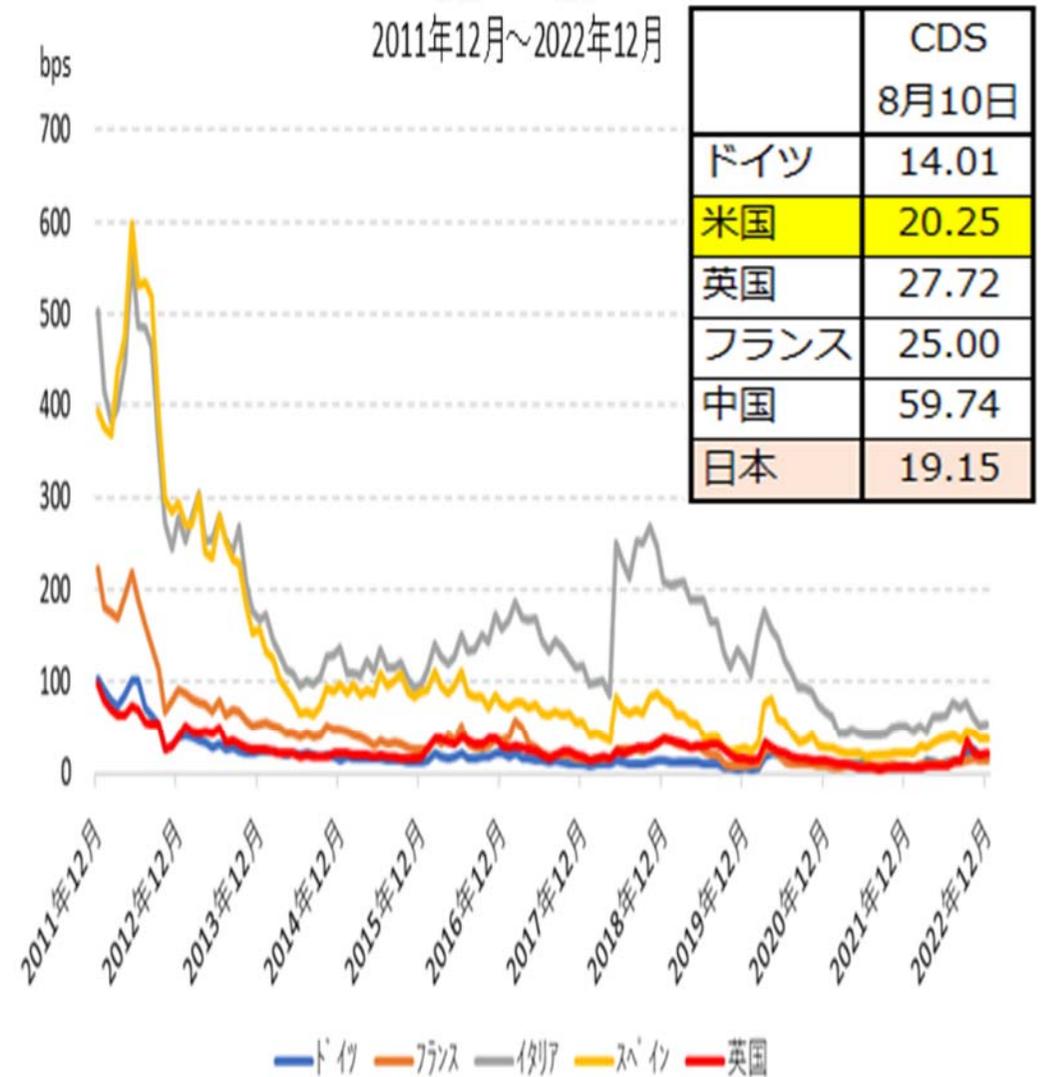


各国CDSの推移

日本・米国・中国・韓国のCDS推移



ドイツ・フランス・英国・スペイン・イタリアのCDS推移





米政策金利：9月13日発表の8月分CPIは反発の気配

米クリーブランド連銀の8月CPI（消費者物価指数）前年同月比予想

INFLATION, YEAR-OVER-YEAR PERCENT CHANGE

Month	CPI	Core CPI	PCE	Core PCE	Updated
August 2023	3.81	4.46	3.58	4.01	08/11
July 2023			3.23	4.23	08/11

WTI原油は
\$ 83.07

6月・7月分の米CPI前年同月比は、それぞれ**3.0%**、**3.2%**でした。ク連銀の8月分CPI予想は**3.81%**と急反発となっています。市場の折込み度合いが注目されます

Note: If the cell is blank, it implies that the actual data corresponding to the month for that inflation measure have already been released.

出所) クリーブランド連銀 (2023年8月11日現在)

FEDウォッチ (2023年12月13日FOMCの米政策金利予想)

TARGET RATE (BPS)	PROBABILITY(%)			
	NOW*	1 DAY 10 8 2023	1 WEEK 4 8 2023	1 MONTH 11 7 2023
475-500	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
500-525	8.1%	8.7%	8.8%	10.2%
525-550 (Current)	59.2%	64.8%	66.2%	51.5%
550-575	29.8%	24.7%	23.1%	32.4%
575-600	2.9%	2.1%	2.0%	5.4%

* Data as of 11 8 2023 07:15:46 CT

再度、年内に政策金利を0.25%引き上げる可能性も排除できません。楽観的な市場の見通しが徐々に修正されてきています

出所) CME (2023年8月11日現在)



米国株：Fear&Greedのピークは株価のピーク

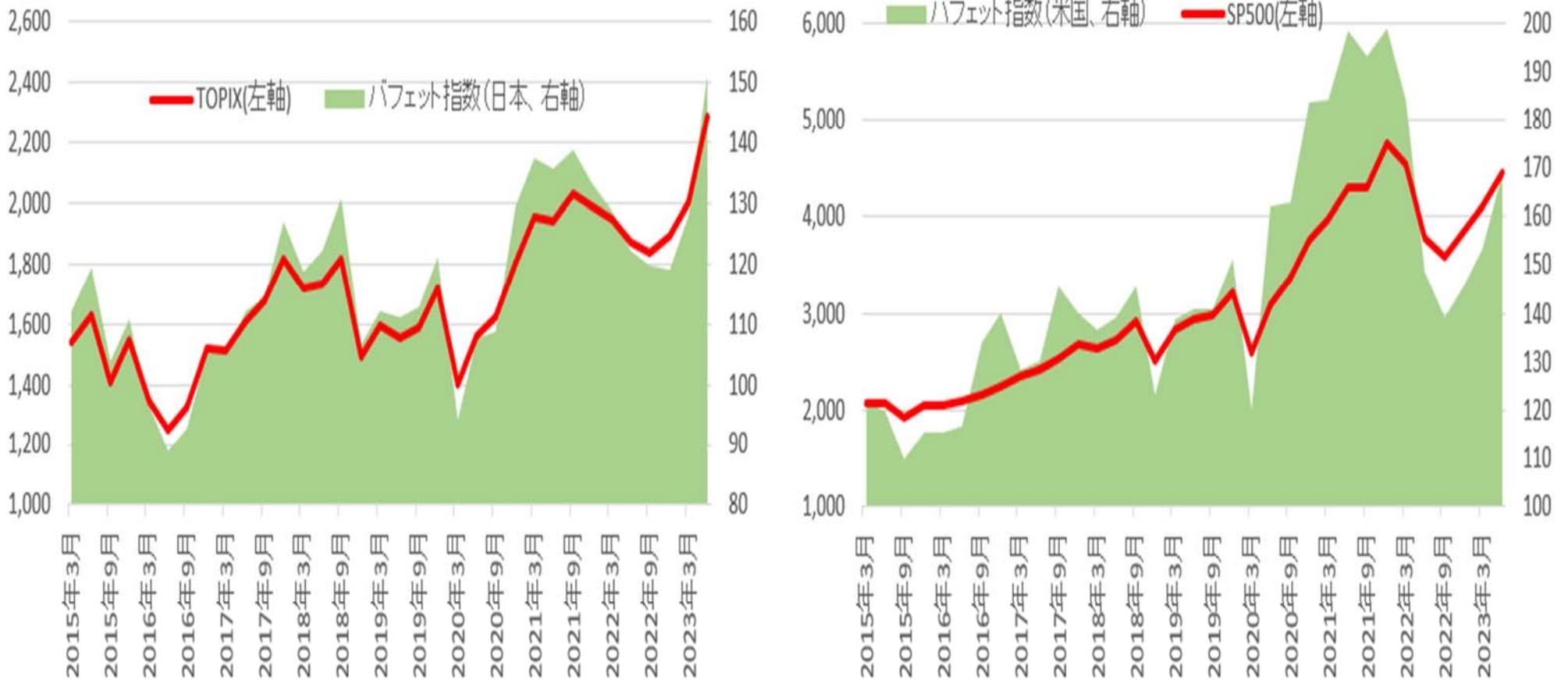
Fear&Greed（恐怖・強欲）指数の動きとS&P500





日米バフェット指数が株価の天底を示唆

日本と米国のバフェット指数（株式時価総額÷名目GDP×100）と株価指数（四半期ベース）



出所) ブルームバーグなど
より筆者作成
(2023年6月末現在)

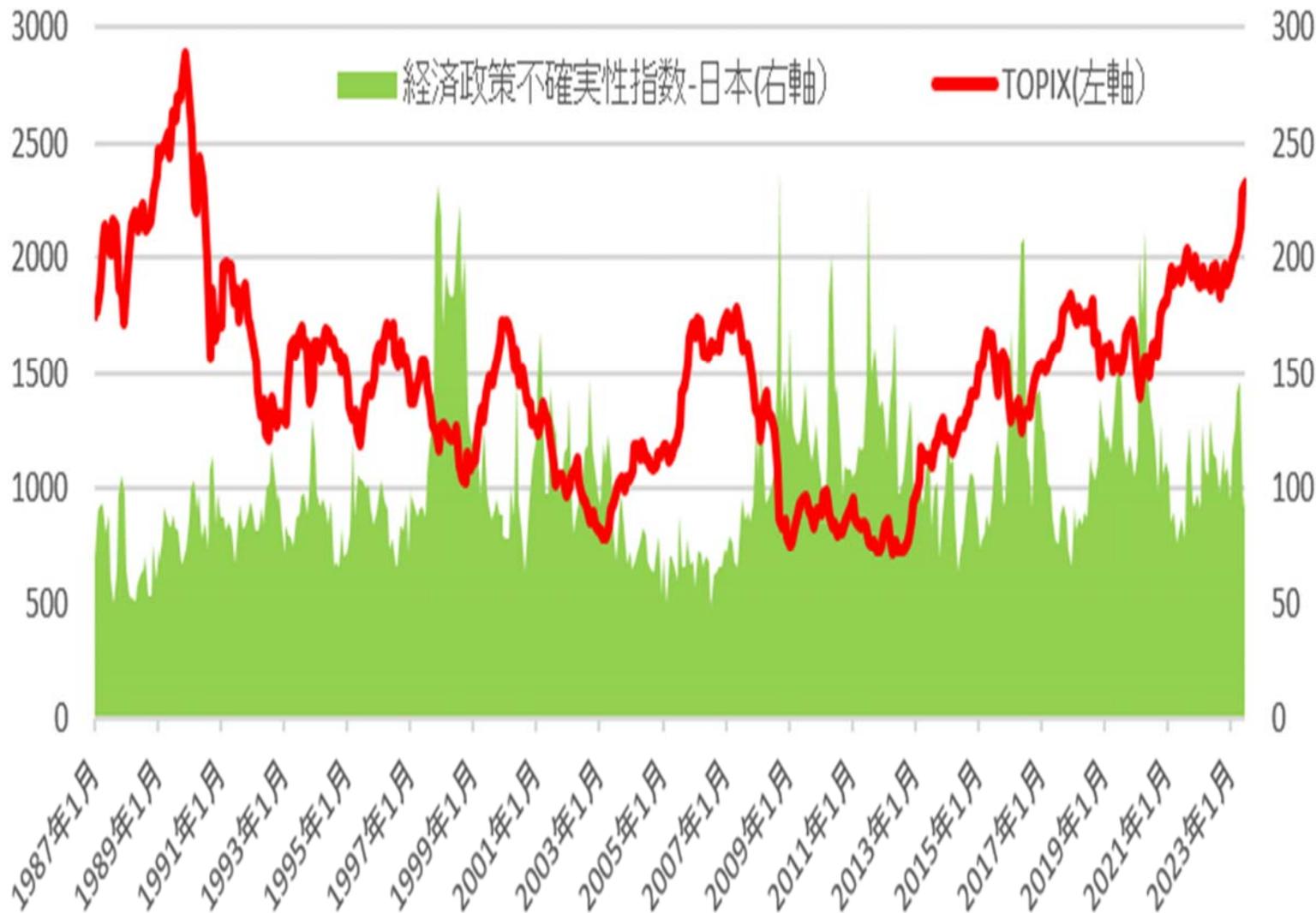
日米でバフェット指数がかなり高い水準にあります。株価がかなり割高な状況にあるわけです

一方、バフェット指数の底入れが確認されると、過去のパターンから底値圏と判断できると考えています



日本政府・日銀の経済政策に不透明感が

日本の経済政策不確実性指数とTOPIXの推移（1987年1月末～2023年7月末、月次）



経済政策不確実性指数とは日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞の記事をベースに政策の不確実性やそれによる経済の先行き不透明性を定量化するために作られた指標です。この指数が上昇してくる場合は、株価が軟調になりやすいと考えており、CALL売り戦略に活用しています

YCC政策の不透明さや政府の増税案から経済政策野不確実性が増加しています

出所) ブルームバーグおよびPolicy Uncertainty in Japan (by Elif C. Arbatli Saxegaard, Steven J. Davis, Arata Ito, and Naoko Miake) より筆者作成

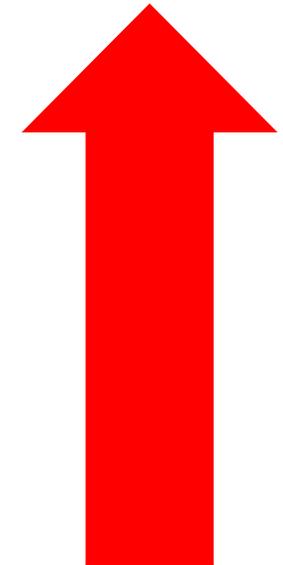


投資手法：トップ・ダウンとボトム・アップ

トップ・ダウン
(指数、先物・OP)



経済環境 (金利、為替、経済指標など)
国や産業とアセット・クラス (株式・債券・商品、セクターなど)
戦略 (資産配分・ポートフォリオ)
個別企業 (財務諸表、業績など)



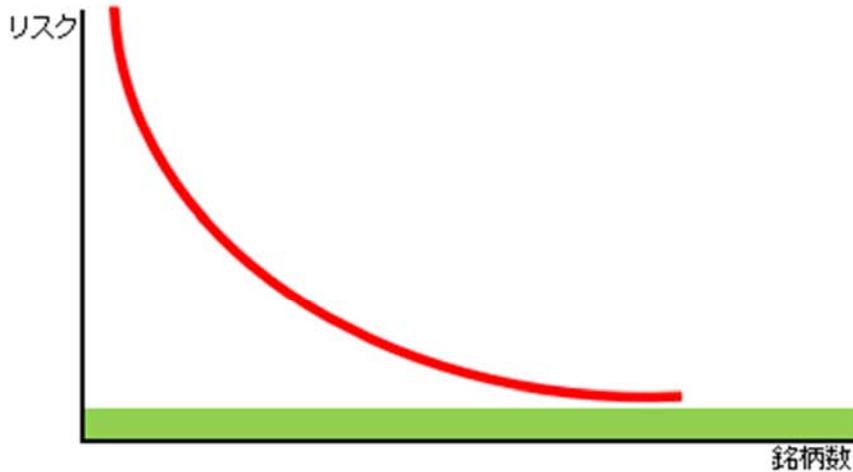
ボトム・アップ
(個別株・OP)

世の中が急激に変化しているなか全体を管理する視点で考えると？



分散投資の効果は過大評価されている

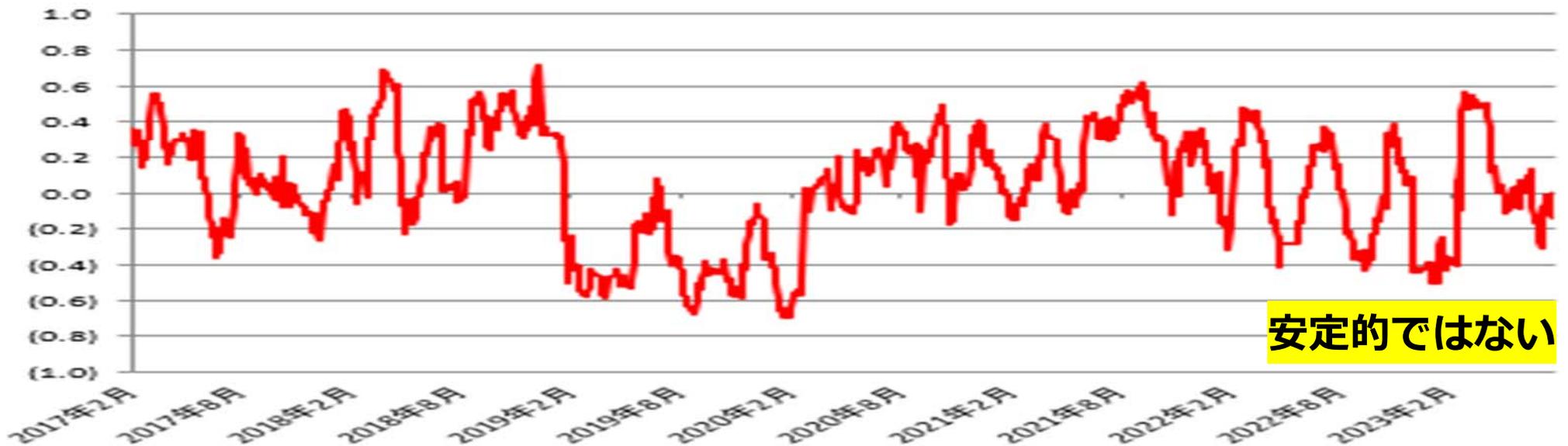
よくある分散投資の説明図



実際の金融市場のリスク



10年物国債と日経平均の相関係数（90日）





インデックス投資と個別株投資の強みと注意点

	トップ・ダウン (インデックス投資)	ボトム・アップ (個別株投資)
強味	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 全体が把握しやすく、リスク管理がしやすい ◎ 世界情勢の変化に、速やかに対応ができる ◎ 世界分散投資などのメリットが受けられる ◎ 個別企業の業績や財務諸表の分析の必要が少ない ◎ 先物やオプションが利用可能な場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 身近な企業に投資ができる ◎ 株主優待がある場合も ◎ 株主として、個別企業を応援できる ◎ 小額投資の場合、手数料がゼロとなる場合も。ただし、上場ETFも無料の場合がある
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 集中投資となる場合がある。ただし、指数への投資は、銘柄分散効果が見込める ▲ マクロ環境への理解が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 有望銘柄の積み上げが、最適とは限らない ▲ フォローする銘柄数が増えるとメンテナンスが大変 ▲ 日本の個別株オプションは流動性がない。米国株にはオプションがあります ▲ 全体のリスクが把握しにくい ▲ 急激なマクロ環境の変化に対応しにくい ▲ 財務諸表や業績のフォローが必要

注) 上記は筆者の私見です



YouTubeで『オプション倶楽部TV』を配信中！

水曜22時からパンローリングチャンネルで！！



3つの視点で日本株・米国株・為替などの市場を大きく揺るがしそうな材料を分析します



第一週
政治経済イベント分析



第四週※
異常値分析



第二週
グレイ・リノ分析

第五週はトレード・投資に役立つ
OPワンポイント解説



※祝日や暦などによってラジオ出演と異常値分析が入れ替わる場合があります。

第三週※はラジオNIKKEI月曜16時～

『キラメキの発想』に出演！

<https://www.radionikkei.jp/kirameki/>



なお、8月23日の配信は
お休みさせていただき、
次回は30日（水）の配信
を予定しています！

専用ページ <https://www.panrolling.com/tv/opctv.html>



OP売坊の無料メルマガ『グレイ・リノ通信』

売坊先生の配信動画を何倍にも楽しめる

補足Q&A記事やOPトレードに関する情報を提供中！

詳細・登録は www.OptionClub.net から



- ・ 日銀金融政策決定会合はOP**買い**戦略のチャンス!?
- ・ 最近の裁定売り残・買い残の推移から、どのようなことがみえてくるのでしょうか？
- ・ 中国が着々と米国債を売って金を買っている!?
- ・ 米国株の「不都合な真実」とは何でしょうか？
- ・ OP**売り**・**買い**戦略で確認・対処すべきポイントとは？
- ……など

読者には入門セミナーと本コースの受付を**先行・優先でご案内**いたします

オプション倶楽部

検索

最後までご清聴、誠にありがとうございました。

講師ブログ 『実践オプシオン教室』

<https://www.jissennkop.blog.fc2.com>

講師ツイッター 『OP売坊@OP49431790』

<https://twitter.com/OP49431790>

Copyright © 2019-2023 OP売坊 / Pan Rolling Inc.

All rights reserved. This report is for authorized recipients only and not for public distribution.

免責事項

- オプション倶楽部TV（以下「本動画」）で使用した図表・数値などは、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・信頼性・完全性を保証するものではありません。
- 本動画に掲載された情報・図表・資料は、あくまで金融知識の向上と情報提供を目的としたものです。証券など金融商品の売り買いを提案・勧誘するためのものとして、また証券など金融商品について助言・推奨するものとして、利用・解釈しないでください。
- 本動画は一般向けに編集されています。特定の投資目的・特定の投資環境・特定の投資家を一切考慮していません。事前に専門家の適切な助言を受けるべきですし、最終的な投資判断は、個々人が個々の状況を考慮して、自らの責任で下すようにしてください。
- 本動画に基づく行為の結果、発生した障害・損失などについて講師およびパンローリング社は一切の責任を負いません。
- 本動画に記載されたURLなどは予告なく変更される場合があります。
- 本動画に記載されている会社名・製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。